

里へ水辺へホタル来い

蘇南高校

（南木曾町）

南木曾町の蘇南高校では昨年度から、かつて町内各所にいたホタルを復活させようと生徒たちが活動をしている。現在は2、3年生の6人が携わり、飼育・放流や環境整備に取り組んで南木曾を再びホタルの里にしようと奮闘している。

中心となるのは3年生の堀望美さん（17）、黒田羽韻さん（17）、岡田誠希さん（17）だ。探究学習の時間などを使い、校内の暗室でホタルの幼虫約120匹や餌となる巻き貝・カワニナの飼育をする。取り組みは「ファイヤーフライプロジェクト」と題し、さらに3人が協力する。

4月中旬、取り組みを始めた昨年度の3年生2人が育て、引き継いだ幼虫57匹を町内大妻籠地区の水路に放流した。3人も6月ごろにホタルの成虫を地域で捕獲し、産卵・ふ化させて育て後輩へつなぐサイクルをつくる予定だ。堀さんは「ホタルを定着させるのは1、2年で達成できる取り組みではない」と長い目で見て考える。

大妻籠の水路は昨年度の2人が整備した。黒田さんは「蘇南高の周りにもホタルが住みやすい環境を整えたい」と構想を話し、3人でホタルに詳しい町民に話を聞くなどして勉強・準備を進める。岡田さんは「南木曾がホタルの飛び交う町になり、地域の盛り上げにもつなげられれば」とプロジェクトの未来を思い描く。

幼虫放流 復活へ奮闘



ホタルの幼虫の餌となるカワニナの飼育ケースを確認する（左から）黒田さん、堀さん、岡田さん